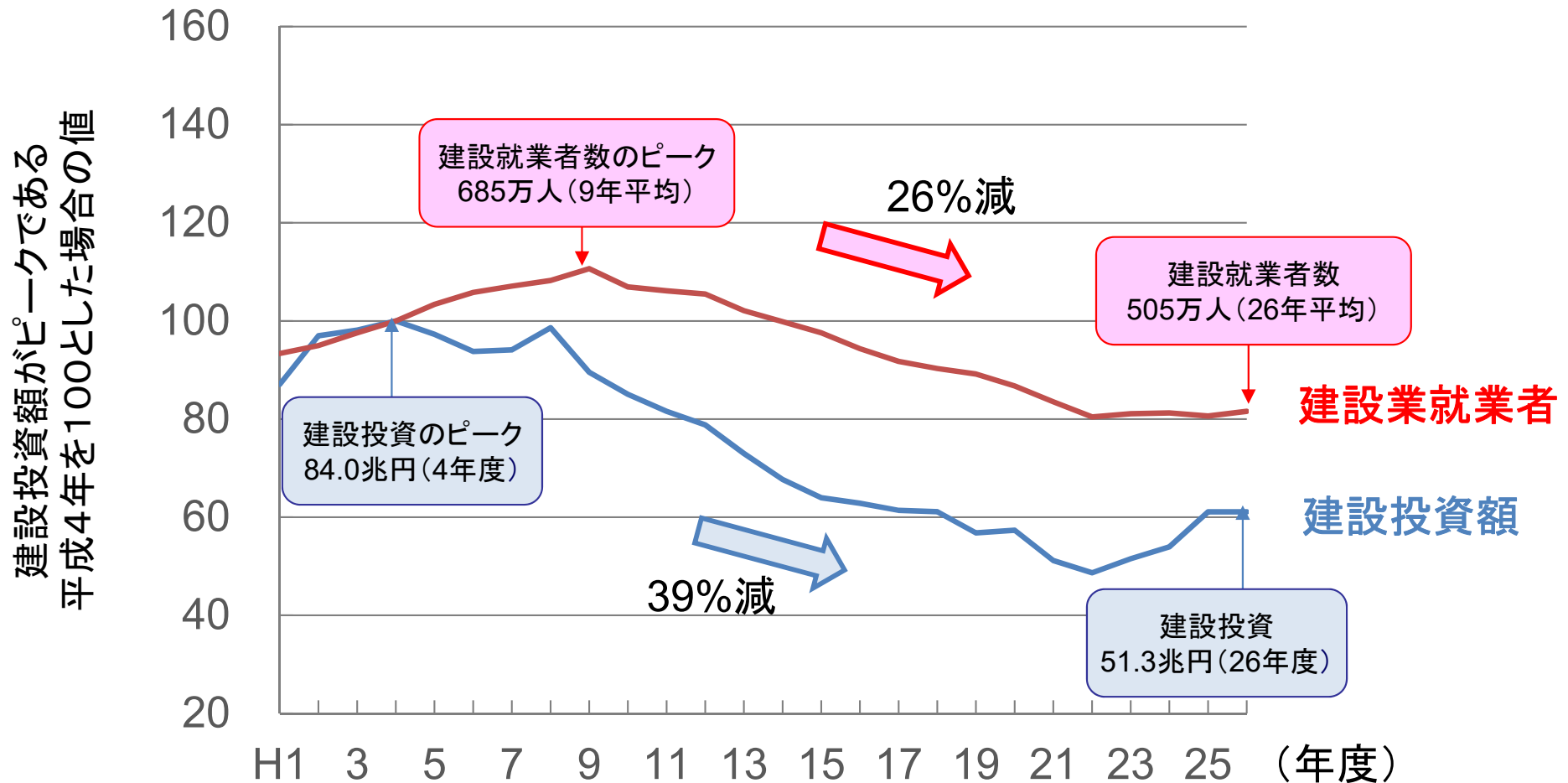


建設業の現状(生産性の低迷)

労働力過剰を背景とした生産性の低迷

バブル崩壊後の投資の減少局面では、建設投資が労働者の減少をさらに上回って、ほぼ一貫して労働力過剰となり、省力化につながる建設現場の生産性向上が見送られてきた。

建設投資額および建設業就業者の増減

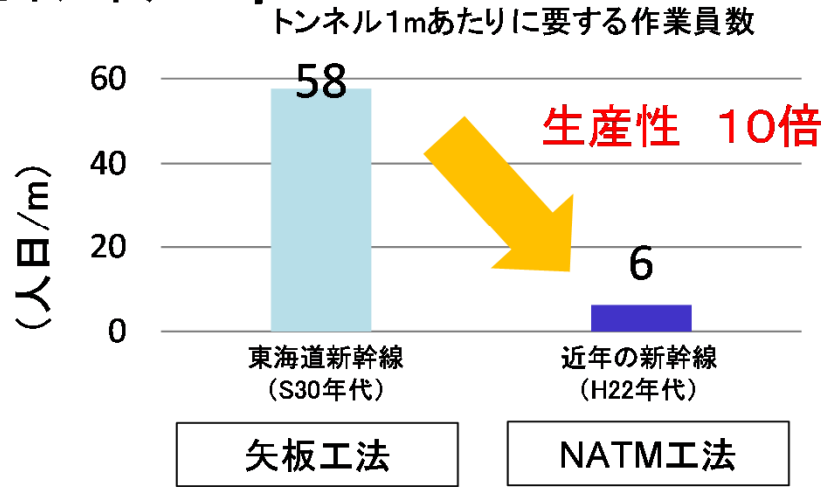


建設業の現状(生産性の低迷)

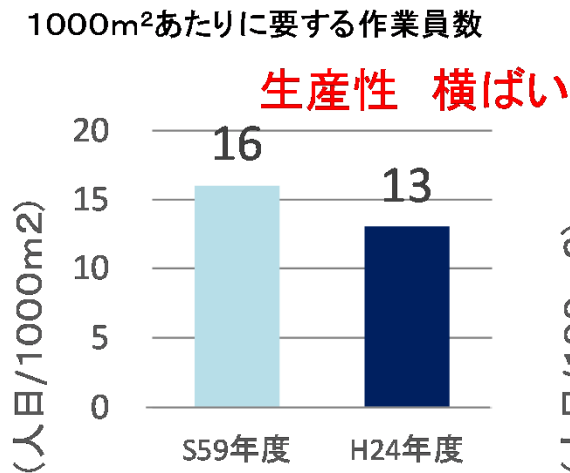
生産性向上が遅れている土工等の建設現場

トンネルなどは、約50年間で生産性を最大10倍に向上。一方、土工やコンクリート工などは、改善の余地が残っている。(土工とコンクリート工で直轄工事の全技能労働者の約4割が占める)

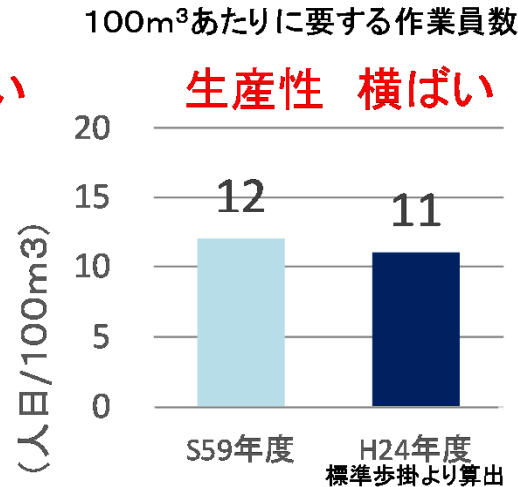
■ トンネル工事



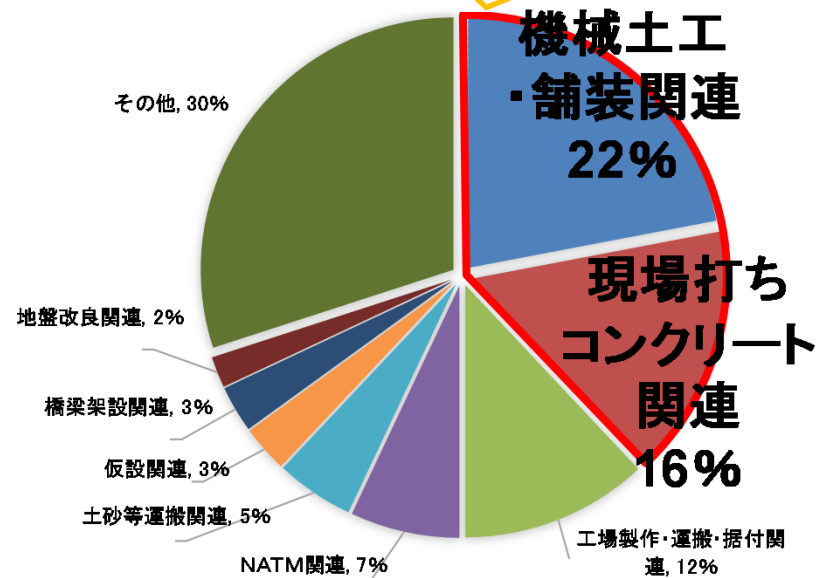
■ 土工



■ コンクリート工



「機械土工・舗装関連」及び「現場打ちコンクリート関連」で全体の約40%



H24国土交通省発注工事実績

□ 生産性向上が遅れている土工等の建設現場

土工や現場打ちコンクリート工の施工現場では、丁張りや足場の設置などに多くの人手を要している。

土工において人手を要する作業



丁張り※

※工事を着手する前に、盛土の高さ等を示す目印の杭を設置する作業



品質・出来形管理

コンクリート工において人手を要する作業



鉄筋



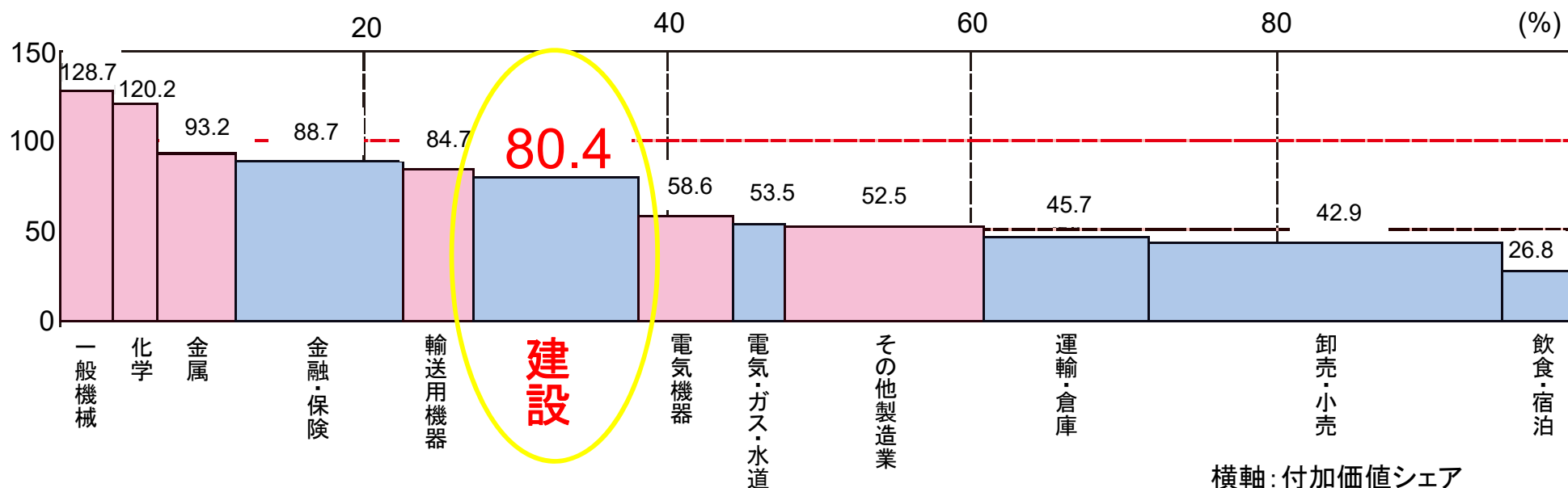
型枠

建設業の現状(生産性の低迷)

□ 生産性向上が遅れている土工等の建設現場

建設業は対米国比で、8割程度。

縦軸: 労働生産水準(米国=100)
(2003年から2006年の平均)



備考: 製造業は赤、非製造業は青で色づけしている。
資料: EU KLEMSから作成。

横軸: 付加価値シェア
(2003年から2006年の平均)

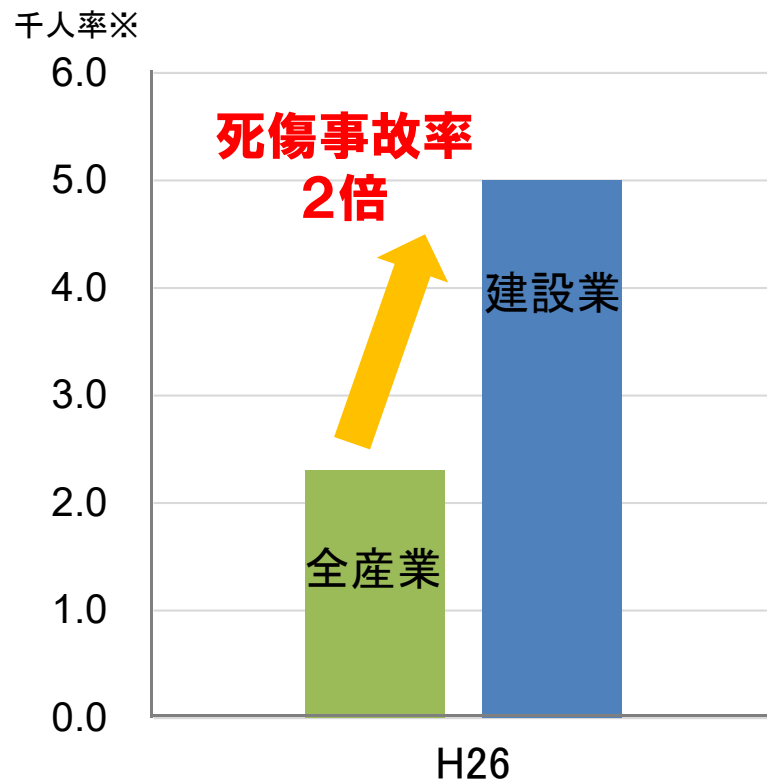
我が国の産業別の労働生産性水準(対米国比、米国=100)(出典: 通商白書2013)

建設業の現状(労働災害)

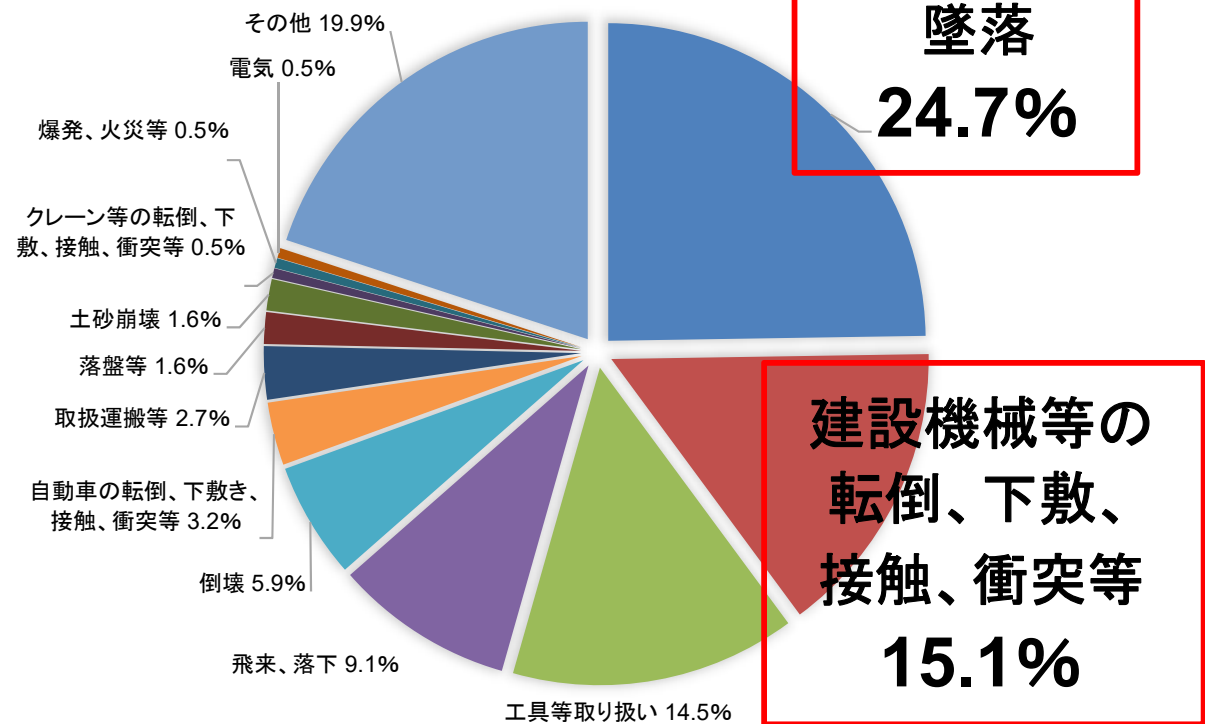
□ 依然として多い建設現場の労働災害

- 全産業と比べて、2倍の死傷事故率(年間労働者の約0.5%(全産業約0.25%))
- 事故要因としては、建設機械との接触による事故は、墜落到次いで多い

死傷事故率の比較



建設業における労働災害発生要因



※千人率 = [(年死傷者数 / 年平均労働者数) × 1,000]

□ 予想される労働力不足

- 技能労働者約340万人のうち、今後10年間で約110万人の高齢者が離職の可能性
- 若年者の入職が少ない(29歳以下は全体の約1割)

2014年度 就業者年齢構成

